

【優秀賞】愛媛オレンジバイキングス賞

「マイクロアグレッション」 大洲市立大洲東中学校 1年

アジュワン デビス メイ

僕は夏休み、あるテレビ番組を見ました。その番組は、黒人に対するマイクロアグレッションについての内容で、とても感動してしまいました。

番組の説明では、マイクロアグレッションとは、「小さな攻撃性」と訳されることがあり、個々の無意識の差別や偏見によって生まれたささいな言動が誰かを傷付けることがあるというものでした。また、マイクロアグレッションが続くと、自己肯定感が低下したり、うつ病になったり、自殺を考えたりするようになるそうです。だから人を傷つけるような小さな言葉や行動は、相手をとっても傷つけることがわかりました。

さらに、マイクロアグレッションは、知らないうちに人を傷付けることなので、指摘もし難いし、自分でも気づき難いかもしれません。また、全く話し掛けないなど対話に消極的になると、全く友達になれずに壁がさらに大きくなるかもしれません。

これらの危惧されることについて番組の意見の中では、たくさんの人と関わって相手のことを「知る」ことや常に相手に寄り添うことが挙げられていました。

その中で、特に印象に残った言葉がカメルーン出身の星野ルネさんの

「お互いに伝えあえる環境を整えていくことが大事だと思う」という言葉でした。

僕は、父がケニア人で、母が日本人のいわゆるハーフです。小学校の時は、人数もそれほど多くなかったのでみんな僕と友達になってくれてとても優しく感じていました。特に、先生方が本当に気に掛けていたことを感じることができ、安心して楽しく学校へ登校することができました。

しかし、中学校になって状況が少し変わったような気がする時期がありました。

生徒の人数も小学校時と比べるとかなり増えたので、これまで接することがなかった仲間とさまざまな場面で接することが多くなりました。その時に僕は、心の中に「黒人なので」という意識がなぜかはたらくようになっていて、壁ができてしまっていました。

もちろんみんな優しくてすぐ友達になれましたが、中学校になって「自分は黒人だ。皆とは少し違う存在だ。」と思うようになっていたようです。それで周りからどう思われているかとか、自分はみんなからどのように見えているのかとか、信仰している宗教やその戒律を守って生活している姿がとても気になっていたのです。

そんな時に、アフリカにルーツを持ち、漫画家として日本で活躍されている

星野ルネさんの言葉と出会い、そして星野さんの描かれる漫画に共感でき、中学に入学してからの悩みを軽くすることができました。

このテレビ番組を視聴してから、星野さんの描かれている漫画に興味を持ち、漫画を手にししました。その中身は大変面白くて笑えるところもあったり、泣きたくなるような不思議な気持ちになったりしました。日本人なのに外国人に見られて、目立ってしまう辛さを上手に表現していて感動しました。

この本を読んで、黒人として大変なことはたくさんあるけれど、他の人にはない自分だけの良さを発揮して自分のことを本当に大切にしてくれる人を自分も大切にしようという思いになりました。星野さんの言葉のように、お互いが完璧に理解しあうことは難しいことだと思います。けれども、理解し合えるようお互いが近づき合い、互いの気持ちを通い合わせる努力をしていくことが大切なんだと僕は思います。

キング牧師の名言に、「最大の悲劇は悪人の暴力ではなく、善人の沈黙である。」という言葉があります。

これから僕は、黒人としての自覚とその社会的存在に誇りと使命を感じ、いろいろな社会経験を積み、自分にしかできない社会貢献をしたいと思います。そして、自分のようなルーツで悩み、苦しんでいる人たちのために真剣に自分の将来について考え、誠実に歩み続けていきます。